



今回のガイド

はたなか ゆうし
畠中 裕之さん

鳥海山ガイド。20代でガイドを始め、現在では年間30組以上の登山客を案内する。遊佐の中でも海沿いにある吹浦地域のご出身。

さりげない遊歩道が
草木や虫たちの楽園

庄内北部の遊佐町は、鳥海山に抱かれた湧水の里。遊佐と聞いて、湧水に満ちたエメラルドグリーン「丸池様」や、山腹から湧き出す「胴腹滝」といった名所を思い浮かべる方も多いだろう。だがじつは、遊佐駅の周辺、いわゆる街なかにも、自噴井と呼ばれる湧水スポットが100以上も存在するのだ。

今回は鳥海山のネイチャーガイドである畠中裕之さんと、町の湧水スポット巡り。最初は、八ッ面川沿いの遊歩道。「アユが戻ってきていますね」の一言で川をのぞくと、茶色い魚の群れ。川底まで見える透明度の高さに驚く。「ここはウッドデッキや草が魚たちの隠れ家なんです」。あちこちに咲く、白い花はクレソン。街なかの川にクレソンが生えているなんて！ 埼玉育ちの私には衝撃だ。「3月頃の若芽が一番おいしいんです」畠中さんはヒヨイヒヨいと、川辺に群生するクレソンやセリを摘み取ってくれた。口に含むと、すっか

り成長したクレソンは辛く、セリは爽やかな香りをわずかに残していた。

水流に生える黄色い花はリュウキンカ、こっちはスイバ。木漏れ日につやめく黄色い花はキンポウゲ。「花びらの内側に蠟細工みたいなツヤがあるでしょう」遊歩道を散策しながら、畠中さんは次々と風景に名前を与えていく。あの尾が白くて長い鳥は？ 「ハクセキレイです。この時期、川の虫がいつぱい羽化するの、狙っていますね」。

次々と現れる自噴井に
水との暮らしが浮き上がる

水量、水質ともに立派な自噴井があると連ねられて来たのは「光月堂の水」。ししおどしのよな石鉢の中にこんこんと水が湧いている。光月堂は地元で愛されるお菓子屋さん。湧水の脇に置かれたベンチで、できたてのかぼちゃパイとコーヒーをいただく。水が良いからだろうか、口当たりがまるやかだ。隣では、近所の方が大きなペットボトルに湧水を汲んでいる。

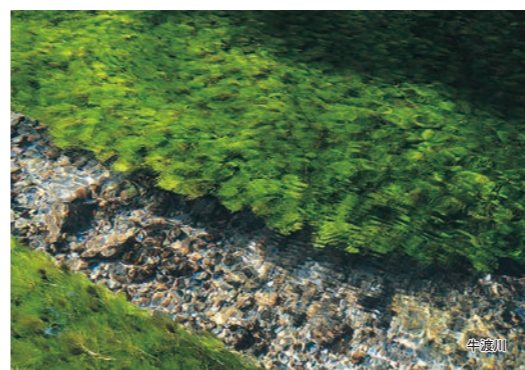


境内にケヤキの巨木が多い深山神社は夏でも空気がひんやり涼しい。



アユの戻り具合が...

水芭蕉やクレソンが咲く遊歩道。川の中で遊べるようになっている。



第2回 庄内みどころ再発見
てくてく遊佐
湧水めぐり

Supported by 庄内広域行政組合

庄内各地の魅力を、その地域に詳しい方と歩いて伝える「庄内みどころ再発見」。今回は鳥海山の山頂から麓の海岸までに広がる遊佐町からお届けします。



耳より遊佐 かわら版

町で見つけた面白いものや
耳よりの情報を選びすぐってお届けします!



① 遊佐の美しい水を守る取り組み

遊佐町の健全な水循環を 保全するための条例

水道水や農業用水として町民の生活を支え、また、古くから地域の誇りとされてきた遊佐の湧水や地下水を守るため、平成25年6月に、遊佐町では水を守る条例を制定。開発行為や井戸の設置について規制を設け、町や事業者、町民が健全な水循環の保全に関する施策に連携・協働して取り組むことが定められた。



② 遊佐の美しい水を守る取り組み

地元の廃油を利用した 「石けん工房」の手作り石けん

「きれいな水を守るには、環境に優しい石けんを使おう!」と、JA庄内みどり遊佐支店のおかあちゃんたちが42年前に立ち上げ。小学校から出る給食の廃油を利用して手作りされた石けんは、泡切れがよく、食器の油污れがきれいに落ちる。3個パック190円でAコープにて販売中。連絡先 ☎0234-72-3067



遊佐の水育ち! おいしい野菜が食べられる 遊佐カレー 遊佐駅本店

遊佐駅構内にある小さなカレー店。遊佐町の特産品、パプリカをベースにした無添加ルーは、マイルドながらスパイスが香る「大人の甘口」。季節の野菜をトッピングした「ベジタブルカレー」は、見た目にもおいしい。

☎090-6683-8530



鳥海山の伏流水が生んだ美味

岩ガキ

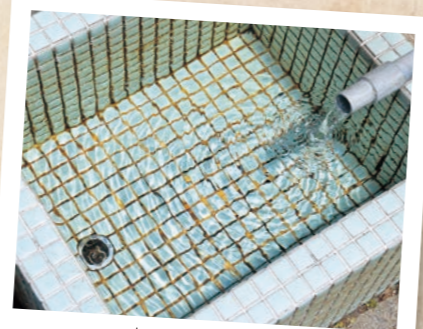
日本海で獲れる、夏に食べるカキ。海底から湧き出るミネラルたっぷりの湧水に育まれ、比類ないほどの濃厚な味わい。「海のミルク」の異名に納得!



うちの水に何が用?



カメ、もぐろ!



小っちゃなお風呂?

子どもたちの新名所

遊佐町子どもセンター 「わくわく未来館」

天気の良い日にも遊べる施設が欲しいという保護者の声から誕生した、親子で遊べるふれあい空間。一時預かり施設、小学生の放課後児童クラブなども併設され、子どもたちの笑い声が聞こえてくる。遊佐町広表6-8 ☎0234-72-5858



遊佐の名水 仕込み! 2つの酒蔵



杉勇

昔ながらの造りにこだわり、鳥海山の伏流水で仕込んだお酒。飲み飽きない、深い味わい。



東北泉

名前の由来は東北の鳥海山麓の泉から造られることから。やわらかな飲み口でキレの良いお酒。



遊佐出身の著名人

佐藤政養(さとう せいよう)

遊佐町升川生まれ。明治5年に東京(新橋)~横浜間に第一号の列車を走らせた、鉄道の生みの親。また、勝海舟に横浜開港を進言した。毎年10月14日の鉄道記念日には、吹浦駅の銅像前で偉業をたたえる祭が開催される。



夏はホタルも飛び交います。遊佐町総合センター



水辺の風景



丸石を積んだ石堀は隙間が多く、川の生き物にとっては絶好のすみか。



川虫を狙うハクセキレイ

ひと休みの後は、再び散策へ。ごうごうという水音に足を止めると、「ただのどぶ川なんです。自噴井の水なのできれいですよ」。用水路を澄んだ水が流れている。遊佐小学校の中庭にも湧水。6月下旬には全国でも希少な、清流に育つ梅花藻が白い小さな花を付ける。住宅地の間にひっそりと建つ深山神社では、手水に湧水が使われている。歩いていると家ごとにある自噴井から聞こえ続ける水音に、雨上がりとは錯覚する。町中に、清らかな水があふれ出ている。「遊佐では昔、工事の時に基礎を打つと水が飛び出してきてしまう、なんて地域がいたるところにありました。水抜き技術が進歩して、宅地として使えるようになったんです」。でも、田んぼなら水に困らないので好都合ですよ? 「必要以上に水が入ってきちゃうんです。相手は自然。すべてが人間の都合通りにはいかないよ」。

当たり前の中にある
驚くような豊かさ

八ッ面川は山から下ってきた

川ではなく、田んぼに湧き出す水が水源。貴福神社から少し歩くと、その源流にたどり着く。ここは希少な魚「イバラトミヨ(トミヨ属淡水型)」の保全区でもある。「イバラトミヨは水温が通年で温かい湧水に棲息します。全国的には珍しいのに、遊佐は八ッ面川も牛渡川も湧水なので普通に見かけます。誰も珍しいと思っただけですね」。牛渡川の近くで育った畠中さんは、川の水は上流に行けば飲めるものだと思っていたが、他の町に引越して、飲めないことにショックを受けた。「ちょっと前までは自噴井の水を煮炊きに使って、まさにこの水で生きていたわけですが、蛇口をひねれば水が出る今、町の人たちの『湧水の里』という意識は薄れたように思います。でもじつは、その水道水のほとんどが地下水です。そういう意味では、遊佐の人たちは今でも地下水で生きているんですよ」。私もこの水が大好きよ。まるでそう伝えに来たかのように、目の前を青いトンボが通り過ぎた。

編集・文||松本典子 写真||間真由美
協力||遊佐町役場企画課